

化学療法を必要とするがん患者さんのQOL（生活の質）を向上させる取り組みが進んでいます。富山大附属病院では外来化学療法センターを設け、自宅からの通院治療を積極的に行っています。患者さんとその家族の相談支援体制も整え、治療への不安や悩みの解消に努めています。

知りたい！ 治療の最前線

◇18
がん患者のQOL向上のために

一口メモ

近年のがん診療の発展に伴い実際の診療は複雑化、多様化している。富山大附属病院では高度かつ先端的ながん診療を提供するために病院全体の機能を集約した8部門からなる「集学的がん診療センター」を設置。多職種連携によって高度がん診療を支えている。

抗がん薬 副作用軽減



①富山大附属病院外来化学療法センターのミーティングの様子
②「ほほえみサロン」の入り口に置かれているアザラシ型のセラピーロボット「へろちゃん」
③富山大附属病院

積極的に外来通院

外来化学療法センターと看護師（がん化学療法看護認定看護師）が医師と共同で賈行の場所です。近年、抗がん薬治療の多くは、通院で実施されています。当院は厚生労働省から地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、1カ月平均で県内外から約340人の患者さんが利用されています。資格を持った専任薬剤師（がん専門薬剤師）にはリラクシングチェア

リラクシングして点滴

大学病院などではの最新治療にも取り組んでいます。リラクシングした状態で点滴を受けられるよう、センターにはリラクシングチェア



石川 雄大
富山大附属病院
外来化学療法センター
がん専門薬剤師

林 直美
富山大附属病院
がん相談支援センター
緩和ケア認定看護師

やベッドが整備されています。

外来治療では、薬剤師が抗がん薬の調製、薬の量やスケジュールの確認を行っています。患者さんが副作用で困っている場合は、お話をうかがい、症状が少しでも軽減できるように医師と対策を協議します。さらに、薬を確実に受けていただくために、近隣の院外薬局とも連携を取っています。

抗がん薬治療では、副作用が気になる方が多いと思います。「副作用は仕方がない」と諦めないでください。副作用を減らす薬はここ数年で目覚ましい進歩を遂げています。吐き気や下痢、しびれなど、少しでも副作用を感じたら相談してください。

家族もサポート

当院のがん相談支援センターは、外来化学療法センターのすぐ向かいにあります。がん患者さんとご家族への相談支援や情報収集を行うため2006年に発足しました。

患者さんは、病気や治療に伴う苦痛だけではなく、今後の生活や仕事、経済的な不安、家族への思いなどさまざまな問題に直面します。また、そのご家族も同様に不安や悩みを抱えています。

同センターでは、専門知識を持った看護師や社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）、事務員が相談を受けています。患者さんやご家族が自分らしく楽しい日々を過ごすことができるようにサポートしています。話をただ聞いて気持ちが悪くなったと言っ方も大丈夫です。

1人で悩まず、まずは気軽に足を運んでみてください。電話でも相談を受けています。

併設の「ほほえみサロン（がん患者サロン）」では、専門家によるミニ講座や茶話会、ウィック試着会のほか、患者さん同士の交流会など、毎月さまざまなイベントを開催しています。入口にはアザラシ型のセラピーロボット「へろちゃん」が迎えてくれていますので、ぜひ、会いに来てください。

◇ 次回は11月12日に掲載します。